

研究タイトル：

英語指導法と評価法の開発と検証



氏名：新美德康／ NIIMI Noriyasu E-mail：niimi@toyota-ct.ac.jp

職名：講師 学位：博士(教育学)

所属学会・協会：全国英語教育学会

キーワード：英語学力評価、英語科指導法、言語テスト・評価、学習評価、実践研究

 技術相談
 提供可能技術：

- ・英語科指導・評価法
- ・言語パフォーマンスデータの分析と活用
- ・言語テスト作成

研究内容：英語教育における学習過程を支援する評価設計と情報テクノロジー活用の研究

1. 研究の背景と問題意識

学校英語教育においては、語句や表現、文法事項等の知識の定着を学習成果として見るだけでなく、他者と関わり合いながら考え、考えた内容を言葉を尽くして表現し、言語使用を通して得た学びを振り返るプロセスを指導・評価することが重要である。従来の評価手法では、知識の正誤判断に重点が置かれ、学習の過程や思考の深まりを十分に捉えきれていない現状がある。私はこの課題に対し、「評価」そのものを学習を促進する支援ツールとして捉え直し、学習者の持続的な成長を促す評価・指導の在り方を探究している。

2. 情報テクノロジーの活用と技能統合型評価による探究

その一環として、コンピュータを用いた英語テスト(CBT: Computer-Based Testing)を活用し、読んだことを基にして書く力を測定する評価タスクの開発に取り組んでいる。中学校での授業実践を前提に、情報を読み取り要点を把握し、それに基づいて自分の意見を英文で表現する連続型のライティング課題を設計し、複数回の試行を通じて妥当性を検証している。分析では、得点のみならず、学習者の文章の推敲過程や自己修正の傾向にも着目し、CBT を用いた評価が学習意欲や英語表現力に与える影響を明らかにしようとしている。

3. 生成 AI と自己調整学習の可能性

近年は、生成 AI や自動評価ツールを「学習のパートナー」として活用する実践研究にも取り組んでいる。学習者が AI の示すフィードバックを参照しながら、自らの表現を批判的に見直す過程を重視し、推敲や再構築のプロセスを可視化・分析している。これにより、AI を単なる答えの提供者ではなく、自己調整学習を支援する媒介として位置づけ、学習者が主体的に振り返りや目標設定を行う学習観の育成を目指している。

4. 研究の展望

今後は、CBT や生成 AI の活用と他者との協働活動とを結びつけ、対話や共同編集を含む新たな評価・学習環境の構築に取り組む予定である。評価を学習の終端ではなく、次の学びを生み出す起点として機能させ、教育現場への実装を通じて理論と実践を往還させていく。学習者一人ひとりが、他者と関わり合いながら考え、考えた内容を言葉を尽くして表現し、言語使用を通して得た学びを振り返る—その過程を支える評価・指導デザインの探究を通じ、次世代のより豊かな英語学習の実現に貢献していきたいと考えている。

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)
